

れる型のものではなからうか”と。

桜井博士の発表されたコモチハリガネゴケはみていないが *var. flaccidum* にあたるものは我が国にもみられる。ハリガネゴケの基本種から変つたとみられるべきものとナガサキハリガネゴケから変つてきたとみられるものがある。

南欧にみられる *B. donianum* にあたるものが我が国にもみられる。葉縁が厚く分化しているのが特徴であるからアツベリマゴケの新称を付したい。これも暖地の乾燥地にみられる型と思われナガサキハリガネゴケとの間に中間型があるようである。しかし比較標本として歐洲産のものを僅か4点しかみていないし、ここで断定的なことをのべるのをさけて一応独立種として扱つておきたい。

ハリガネゴケよりも更に北方ないし高所に適応した型と思われるものが *B. elegans* である。我が国の高山にもそれに近いと見るべきものが若干出現している。しかし *B. elegans* の特徴である密に集つて束をなす植物体、著しく *concave* な葉などは程度の問題で、少くとも上記日本産のものはハリガネゴケから特に区別すべきものとも思えないので、前者に含めて取扱うことにしたい。

ヒゴハリガネゴケはナガサキハリガネゴケから分化したとみるべきものであろう。その特異な育地や分布域から考えるとごく新しい種と言えるのではなからうか。やはり暖地の乾燥した育地に適した型と言うべきであらう。

結局我が国産のハリガネゴケ群はハリガネゴケ、アツベリマゴケ、ヒゴハリガネゴケの3種とコモチハリガネゴケおよびナガサキハリガネゴケの2変種とに整理するのが適當であらう。

□ 柴田桂太編：資源植物事典（増補改訂版）Keita Shibata: A cyclopedia of useful plants and plant products (Enlarged and revised edition)

本書の第一版が出てから既に8年の歳月が流れようとしている。当時資源科学研究所の植物関係の人達が大きな野望を持つてまとめ上げた作品も、其頃の製本材料の不充分さと挿図にあまり凝りすぎて懐古趣味のきらいがあつたことは否めなかつた。また地球上の天然資源は其頃も今もあまり変りはないが、これを利用する途はこの数年間に多方面に開拓された。これらの問題を考慮に入れて新装成つたのが今回の改訂版である。植物名索引のほかに新たに事項名索引120頁分も追加された。一番目立つのは多数のオート刷図版である。我国の重要な或は特殊な天然資源でありながら、あまり類のもののない写真図版を多数揃えている。科学的であることは云ふまでもないが詩味が溢れているのが嬉しい。印刷は半七で悪からう筈もない。図版の説明だけでも横文字がほしいと思つた。発行所 北隆館 昭和32年5月25日発行 定価 2,500円（小林）。